

2689 カワニシホールディングス

野瀬 洋輔 (ノセ ヨウスケ)

株式会社カワニシホールディングス社長

サンセイ医機の子会社化により 業界内第4位への飛躍を見込む

◆カワニシホールディングスを取り巻く市場環境

当社にとって最も重要なマーケットである医療器材市場については、世界の市場規模は2,336億ドルと概算されており、国別のマーケットシェアは米国が40%、日本が9%、ドイツが8%、フランスが4%、イタリアが4%、英国が3%、中国が3%、カナダが2%、ロシアが2%、スペインが2%、その他が23%となっている。米国、欧州が巨大な市場となっており、アジアでは日本が大きなウエイトを占めている。また、上位10カ国を除く23%の中に約180国がひしめいている。

各国の名目GDPをみた場合、日本および欧州はGDPとマーケットシェアの割合がほぼ同等だが、米国は25%のGDPに対してマーケットシェアは40%となっており、医療器材市場が極めて大きいことがわかる。

一方、アジア市場については、中国の市場規模は日本の3分の1に過ぎず、さらに1人当たり市場に換算すると30分の1以下となる。また、医療レベルが高いと言われている韓国においても市場規模は日本の10分の1程度、1人当たり市場も3分の1以下にとどまっており、まだまだアジアの医療器材市場は小さいことがわかる。

そのほか、世界の医療器材メーカーの売上規模をみると、米国を中心とした海外メーカーが上位を占めており、当社グループが取り扱っている医療器材も80%以上が輸入品となっている。また、国内においては既存メーカーがコストダウン等の必要に迫られる中、大手電機メーカーが医療器材市場への参入を図るなど、今後の競争激化が見込まれている。

◆2011年6月期第2四半期の決算概要

当第2四半期の連結業績については、売上高は305億49百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益は2億91百万円(同173.2%増)、経常利益は2億77百万円(同204.7%増)、純利益は1億56百万円(同343.7%増)となった。売上高は第2四半期累計期間では過去最高の数字となったほか、各種利益も大幅な伸長となった。

事業別の業績については、医療器材事業の売上高は261億72百万円(前年同期比11.3%増)、営業利益は3億19百万円(同182.0%増)、ライフサイエンス事業の売上高は20億54百万円(同4.7%減)、営業利益はマイナス8百万円(同2百万円増)、SPD事業の売上高は32億11百万円(同1.8%増)、営業利益は22百万円(同34.2%減)、その他事業の売上高は3億42百万円(同16.5%増)、営業利益は15百万円(同33.9%減)となった。

当社グループの主力となる医療器材事業については、循環器関連商品は償還価格下落の影響により前年同期比1.7%の減収となった。なお、不整脈治療に用いるカテーテル等の販売は順調に拡大しているほか、新地域開拓に注力している神戸、営業活動の強化に努めている広島において新規顧客の獲得も順調に進んでおり、今後の成長が期待できるものと考えている。

整形外科関連商品は、これまでの営業活動の成果が結実したことにより前年同期比11.6%の増収となった。特に新市場である兵庫エリアは約30%の成長をみせるなど好調である。

手術関連材料は、急性期大病院をターゲットとした積極的な販売活動の推進により前年同期比9.6%の増収と

なった。メーカーを絞り込んだ販売活動は顧客からの評価も高く、特に兵庫および四国エリアで商権獲得が進んでおり、香川・愛媛等において2桁成長を果たしたほか、島根では50%、兵庫では27%の高成長をみせている。

ライフサイエンス事業については、仕入価格の見直しにより売上総利益は増加したものの、顧客における購入合理化、競争激化による販売単価の下落、前期において新型インフルエンザ検査キットの販売が多かったことの影響、予算執行の遅れなどの影響により計画を若干下回る結果となった。

SPD事業については、昨年3月に1施設において運用を開始したものの、医療器材価格に対する値下げ圧力の影響等もあり増収減益となった。なお、下期は2施設において新規受託、1施設において契約更新が予定されており、当初計画を4億円程度上回る見込みである。

貸借対照表については、現金および預金の増加1億8百万円、受取手形および売掛金の増加12億48百万円、商品の増加1億59百万円等により、資産合計は209億35百万円(前期末比14億33百万円増)となった。また、支払手形および買掛金の増加14億13百万円、短期借入金の増加3億72百万円、未払法人税の減少2億7百万円、長期借入金の減少64百万円等により、負債合計は190億56百万円(同13億19百万円増)となった。以上の結果、純資産合計は18億79百万円(同1億14百万円増)、自己資本比率は9.0%となった。

キャッシュフローについては、減価償却費1億3百万円、仕入債務の増加14億13百万円、売上債権の増加12億48百万円、棚卸資産の増加1億59百万円、法人税等の支払額2億46百万円等により、営業活動によるキャッシュフローはマイナス59百万円(前年同期比3億86百万円増)となった。また、定期預金払戻による収入63百万円、有形固定資産の取得に係る支出35百万円、無形固定資産の取得に係る支出38百万円等により、投資活動によるキャッシュフローはマイナス16百万円(同70百万円増)となった。また、短期借入金の増加4億68百万円、長期借入金の減少1億59百万円等により、財務活動によるキャッシュフローはプラス2億34百万円(同7億40百万円減)となった。以上の結果、現金および現金同等物の期末残高は32億54百万円(前期末比1億59百万円増)となった。

◆サンセイ医機の子会社化について

昨年11月9日に発表したとおり、現在、サンセイ医機(株)の株式取得に向けて手続を進めている。

サンセイ医機は福島県内6拠点において医療器材の販売等を行っており、県内シェアの約30%を占める断トツ1位のディーラーである。前期の売上高は約150億円、経常利益は約3億50百万円と、医療器材業界の中でも売上規模が大きく利益率の高い優良企業である。

今回のM&Aに伴う特徴的な効果としては、整形外科商品のシェアアップが一番に挙げられる。現在、当社グループの整形外科商品売上は、カワニシが約90億円、日光医科器械(株)が約50億円、(株)オオタメディカルが約6億円となっているが、ここにサンセイ医機が加わることで合計170億円を超え、おそらく全国ナンバー1のシェアとなる。また、グループ全体の売上高も約760億円まで拡大し、業界内でのポジションも現在の6番手から第4位まで向上する見込みである。

◆通期の計画

2011年6月期通期の連結業績予想については、売上高は600億64百万円(前期比2.0%増)、営業利益は4億92百万円(同0.6%増)、経常利益は4億67百万円(同1.2%増)、当期純利益は2億1百万円(同10.1%減)と、期初計画から変更はない。当期純利益に関しては、今期より各子会社に対する税制の優遇措置がなくなることから減少を見込んでいる。

◆質 疑 応 答◆

医療機関からの値下げ圧力について伺いたい。

取引量の多い病院からは圧力が強い。当社としてはメーカーにコストダウンを求めていくことに加え、病院、メーカー、われわれの3者がうまくいく流通形態を提案することも重要になると考えている。

薬剤溶出ステントの市場価格は下がっているのか。

発売開始当初は高値安定だったが、近年新製品が相次いで登場したため競合によって下落傾向にある。

医薬品業界に比べ医療器材業界は再編が進んでいないのではないのか。

売上高がさほど大きくない企業でも利益を上げることができる状況はまだ継続しているものの、償還価格の引き下げなどにより、今後、多くの企業で経営上の危機感が生まれてくるものと考えている。現時点で再編の速度はかなりゆっくりとしたものでしかないが、将来的には医薬品業界のように資本統合が進むのではないのか。

メディセオパルタック等の医療器材領域への参入に関してどのように認識しているのか。

薬品の卸が医療器材市場で成功するためには、自社の部門強化よりも大規模な買収によって医療器材ディーラーをとっていく以外にはないと考えている。

サンセイ医機の営業利益率が非常に高い理由を伺いたい。

競合が少ないため営業にコストをかけずに済むなど、販売効率が非常に高いためと考えている。

(平成23年2月24日・東京)